

### ③セミオープンシステムを利用した分娩数

|           |       | 登録診療所からの紹介による分娩数(①) | 登録助産所からの紹介による分娩数(②) | セミオープンシステムによる分娩数の計(①+②) |
|-----------|-------|---------------------|---------------------|-------------------------|
| 実施前:H16年度 |       | 0                   | ...                 | 0                       |
| 事業後       | H17年度 | 0                   | ...                 | 0                       |
|           | H18年度 | 44                  | ...                 | 44                      |
|           | H19年度 | 28                  | ...                 | 28                      |

※19年度登録診療所からの紹介による分娩数は11月末現在

※参考:登録医の分娩立ち会い件数 18年度11件、19年度7件

### ④オープン・セミオープン病院からの診療所・助産所への逆紹介件数

|           |       | 病院から診療所への逆紹介件数 | 病院から助産所への逆紹介件数 |
|-----------|-------|----------------|----------------|
| 実施前:H16年度 |       | ...            | ...            |
| 事業後       | H17年度 | 0              | 0              |
|           | H18年度 | 0              | 0              |
|           | H19年度 | 1              | 0              |

### ⑤その他

- 事業に参加している15施設のうち、3施設は無床診療所であり、その施設からの紹介が多いのが特徴である。

#### (4) 本事業を実施する上で工夫した点

| 工夫した点           | 背景<br>(工夫に至った理由・目的等)   | 工夫した内容<br>(対象・資源・実施者等)  |
|-----------------|--|---|
| 病院と診療所<br>間との連携 | 登録医と大学病院医師との勉強会、<br>意見交換、交流の場を設けるため。   | 大学病院医師が主体者となり周産期<br>オープンシステム研修会を開催。大学<br>病院医師によるミニレクチャー、症例<br>検討や事務的検討を行った。   |
| 普及啓発<br>(印刷物)   | 周産期オープンシステムの普及、周知<br>のため。(パンフレット、ポスター)<br>リスク評価表を使用することにより、リ<br>スクへの認識を高めるため。<br>オープン病院と登録医間の情報を共<br>有するため。(共通診療ノート) | 大学病院産婦人科科長を中心とし<br>て、パンフレット、ポスター、妊娠リス<br>ク自己評価表、共通診療ノートを作<br>成した。   |
| 普及啓発<br>(発表・講演) | これからの周産期オープンシステムの<br>普及、周知のため。   | 大学病院産婦人科科長を中心とし、<br>岡山県周産期医療協議会、医師会<br>報、中国四国産婦人科学会、日産<br>婦岡山地方部会、岡山県母性衛生<br>学会、健やか親子21岡山大会、日<br>医生涯教育講座等で発表、紹介し<br>た。<br>新聞やテレビを通して紹介した。 |

## 2 周産期医療施設オープン病院化における成果及び課題

### 1) モデル事業における成果

- リスクのある妊婦を前もって紹介することによる管理の向上、診療所医師のストレスの軽減。
- 定期的な症例検討会による地域連携の強化、周産期医療レベルの向上。
- 入院ベッドをもたない産婦人科医、高齢で分娩を取りやめようとしていた医師が参加することによる周産期医療に関与する医師の増加。
- 病院の集約化により、分娩取り扱いをやめた病院医師の参加による周産期医療に関与する医師の増加。